

01 歴史文化学科の活動ほか

基礎演習Ⅱのフィールドワーク：生野銀山

2023年12月10日、基礎演習Ⅱの一環として、生野銀山でフィールドワークを実施しました。52名の1年生が参加し、ガイドの案内を聞きながら、博物館展示や坑道内の遺構・遺物を実見しました。坑道内は年間を通して気温が13℃程度で、「狸掘り」という手作業の掘り方では、人がやっと通れる程度の穴を一日15cmずつ、這いながら掘り進めたとか。想像以上の寒さと狭さに驚く学生が多かったです。学生からのコメントには、「この場所で働いていた人がいて、手作業で掘った人たちがいるということを感じられて良かった。」「現在は、坑道の内と外との気温差を利用して、坑道内にサツマイモやカボチャ、酒が貯蔵されていた。…今も活用されていることに驚かされた。」などなど。コロナ禍も収まり、ゼミ巡検などで色々な場所に行けるようになりました。今後も、このような機会を定期的につけていきたいです。(教員：新見まどか)



第3回「歴史総合」・「地理総合」研究会開催

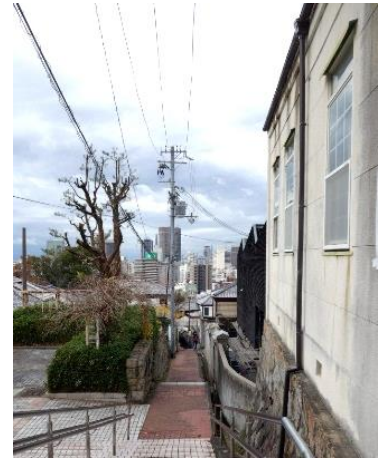


昨年度に続き、第3回目の研究会を2023年9月24日に開催し、オンライン参加も含め約20名が参加しました。今回は、東谷ゼミ卒業生の吉宗和真さん（神奈川県立横浜修悠館高校教諭）が、「歴史総合・地理総合の授業実践とICTの活用」と題して報告し、通信制の高校における歴史総合を教え方、独自教材作製やルーブリックの活用について説明しました。特に話題はICTの積極的活用例が中心となり、「タブレット一人一台」の時代を迎え、パワーポイントをはじめ、グーグル社のスライド、クラスルーム、フォーム、スプレッドシートなどをどのように活用しながら授業を進めているか、具体例を示しました。討論では、史料を読み取る際にどのような難しさがあるか、歴史的思考力を育成するうえでの教師の導き方法はいかにあるべきかなどを議論し、理解を深めました。歴史総合導入3年目を迎え、各校で創造的な取り組みがなされるとともに、課題も次第に明らかになっています。(教員：高田 実)

歴らぼ通信の刊行は、これで22号となりました。歴らぼ通信では、歴史文化学科における様々な活動を紹介しています。通信に記載される記事の多くは、ホームページ「歴らぼのWEBサイト」(<https://www.konan-u.ac.jp/hp/rekibun/>)でも紹介していますので、そちらもご覧下さい。なお、各記事を書いた学生の年数は記事の時期に合わせています。



2023年12月16日、私たちは博物館学芸員養成課程の博物館実習 I A の授業の一環として、神戸市の竹中大工道具館を見学しました。竹中大工道具館は、大工道具を展示する日本唯一の博物館で、その圧倒的な大工道具の数に驚きました。棟梁の知恵の数々に感心し、日本の道具の面白さを楽しく学べました。建物自体も木造建築風となっており、伝統や現代の建築技術を肌で感じられる素晴らしい空間でした。午後からは地図を片手に、有志メンバーで北野異人館界隈の重伝建地区を巡りました。普段あまり行かないようなところまで足を運ぶと、数多くの洋風の伝統的建造物が並んでいました。保存地区の建造物が実際に活用される様子を確認でき、まちづくりに感心しました。実際に足を運び、自分の目で見ると驚きと発見の連続で、とても有意義な時間を過ごしたと思います。（2回生・伊場田扶弥）



高田ゼミ合宿：岡山県児島地域、小豆島



2023年9月13・14日、高田ゼミ2・3回生9名で児島（岡山県）の旧野崎家住宅と小豆島（香川県）を訪ねました。初日は、北前船の港であった下津井の回船問屋で地域の漁業の歴史を学んだ後、地元の海鮮料理での昼食を食べ、旧野崎家住宅に行きました。そこでは「塩田王」と呼ばれた野崎武左衛門の暮らした住宅や塩作りを知ることができ、その用地の広さに驚きました。翌日の小豆島では、オリーブ公園を始め醤油記念館や二十四の瞳映画村など小豆島の代表的な観光地を巡りました。そして日本三大渓谷美のひとつである寒霞渓やエンジェルロード等、美しい景観も楽しみました。今回の合宿は地域の歴史と美しい景観の両方巡ることができ、とても良い体験でした。また機会があれば訪れたいです。（3回生・岡 凌空）

高田ゼミ、「もしも猫展」を観に行く

2023年11月12日、高田ゼミは、京都文化博物館で開催される特別展「もしも猫展」を見学しました。歌川国芳を筆頭に愛猫家として知られる画家たちの描く猫の擬人化作品が展示されていました。他に鶏や鼠、狐など様々な動物を擬人化した作品もありました。今回の展示会で、擬人化の引き出す効果を学ぶことが出来ました。これまで何気なく国芳作品を鑑賞していましたが、これからは作品ごとにどのような効果が擬人化により引き出されるのか、その影響に注目して鑑賞したいと思います。（2回生・真田実佳）



入学前ガイダンス



2023年12月16日、鳴海ゼミ生の私は、来春入学予定の年内入試合格者向けイベントである「入学前ガイダンス」に参加しました。ガイダンス後半では、佐藤・中町・鳴海ゼミ生の3人が歴史文化学科の魅力を三者三様の視点でプレゼンしました。留学生として体験、学科の学びや「歴らぼ」の活動、教職資格の紹介など、大学生活の魅力が伝わるプレゼンだったと思います。その後は、新入生を3グループに分けて交流会を催しました。緊張したり、積極的に質問したりと様々な様子でしたが、みんな充実した表情であったのが印象的で、これから始まる学びのスタートラインに関われたことが嬉しく思いました。新入生のみなさん、良い大学生活となるよう願っています。（3回生・勝田颯斗）

2023年11月30日と12月1日、鳴海ゼミの2～4回生21名は、巡見で香川県高松市周辺を訪れました。初日は琴平町や丸亀市を訪れ、金刀比羅宮や丸亀城の建造物を見て回りました。奥社まで歩いた金刀比羅宮では、御本宮や旭社などを見学しました。社殿に施された繊細な彫刻をじっくり見ることができ、非常に面白かったです。2日目は四国村ミュージアムを中心に、高松城のあった玉藻公園、大名庭園を持つ栗林公園を訪れ、多くの歴史的建築物を見学しました。四国村ミュージアムでは四国の歴史的な住宅や土蔵が移築されており、砂糖製造など香川の伝統産業文化の歴史を感じることができました。もちろん食事はうどん尽くしでした。今回の巡見では、香川県の歴史や生業に触れることができ、充実した時間となりました。(3回生・陰山卓人)



新見ゼミ、奈良巡検



私たち新見ゼミは、2024年1月13日に奈良公園周辺でゼミ巡検を行いました。新見ゼミはアジア史を研究対象とする人が多いですが、この巡検では奈良公園・興福寺・奈良国立博物館・春日大社・東大寺など、日本の歴史を眺めることができる建物を多く見学し、普段とは違った分野に触れることができました。特に、奈良国立博物館で見た絵画の中に鹿がたくさん描かれていて、古くから鹿が人々にとって身近で大切な存在であったことを、身に染みて感じることができました。また、観光に訪れている人はほとんどが外国の方で、世界的に見てもこんなに近い距離で鹿と触れ合える場は貴重なのだなと感じました。今回の巡検は、現在まで残っている日本の歴史的な文化財や建物を直接見学することができ、日本史についての学びを深める機会になりました。(2回生・堀内空弥)

ムスリムフレンドリー班：西成モスク調査

私たち「ムスリムフレンドリー班」は、2023年11月4日、西成モスクと大阪のハラールレストランと礼拝所の調査を行いました。西成モスクは新今宮駅から徒歩10分程の場所にあり、交通アクセスが非常に良く、観光客にとっても利用し易い場所でした。モスクは5階建てビルを改装したもので、1階にハラールショップ、2階と3階に女性と男性の礼拝室、4階にはムスリムの子供たちの学習教室がありました。とりわけ印象に残ったのは学習教室で、毎週土曜日に子供と親と一緒にムスリムに関することやアラビア語を学習し、歌や音楽などを通じて楽しく学習する姿はとても独創的で面白いと感じました。(3回生・仲宗根太陽)



鳴海ゼミ巡検：香川県高松市周辺

2023年11月30日と12月1日、鳴海ゼミの2～4回生21名は、巡見で香川県高松市周辺を訪れました。初日は琴平町や丸亀市を訪れ、金刀比羅宮や丸亀城の建造物を見て回りました。奥社まで歩いた金刀比羅宮では、御本宮や旭社などを見学しました。社殿に施された繊細な彫刻をじっくり見ることができ、非常に面白かったです。2日目は四国村ミュージアムを中心に、高松城のあった玉藻公園、大名庭園を持つ栗林公園を訪れ、多くの歴史的建築物を見学しました。四国村ミュージアムでは四国の歴史的な住宅や土蔵が移築されており、砂糖製造など香川の伝統産業文化の歴史を感じることができました。もちろん食事はうどん尽くしでした。今回の巡見では、香川県の歴史や生業に触れることができ、充実した時間となりました。(3回生・陰山卓人)



新見ゼミ、奈良巡検



私たち新見ゼミは、2024年1月13日に奈良公園周辺でゼミ巡検を行いました。新見ゼミはアジア史を研究対象とする人が多いですが、この巡検では奈良公園・興福寺・奈良国立博物館・春日大社・東大寺など、日本の歴史を眺めることができる建物を多く見学し、普段とは違った分野に触れることができました。特に、奈良国立博物館で見た絵画の中に鹿がたくさん描かれていて、古くから鹿が人々にとって身近で大切な存在であったことを、身に染みて感じることができました。また、観光に訪れている人はほとんどが外国の方で、世界的に見てもこんなに近い距離で鹿と触れ合える場は貴重なのだなと感じました。今回の巡検は、現在まで残っている日本の歴史的な文化財や建物を直接見学することができ、日本史についての学びを深める機会になりました。(2回生・堀内空弥)

ムスリムフレンドリー班：西成モスク調査

私たち「ムスリムフレンドリー班」は、2023年11月4日、西成モスクと大阪のハラールレストランと礼拝所の調査を行いました。西成モスクは新今宮駅から徒歩10分程の場所にあり、交通アクセスが非常に良く、観光客にとっても利用し易い場所でした。モスクは5階建てビルを改装したもので、1階にハラールショップ、2階と3階に女性と男性の礼拝室、4階にはムスリムの子供たちの学習教室がありました。とりわけ印象に残ったのは学習教室で、毎週土曜日に子供と親と一緒にムスリムに関することやアラビア語を学習し、歌や音楽などを通じて楽しく学習する姿はとても独創的で面白いと感じました。(3回生・仲宗根太陽)



歴史の旅企画班の巡検：京都漫画ミュージアムと京都文化博物館

2023年8月3日、歴史の旅企画班は、京都国際マンガミュージアムと京都文化博物館を訪ねました。前者は「村上もとか展」が開催中で、『JIN-仁-』（集英社）などの原画やネームを閲覧し、着物の柄や木の葉をトーンで再現する技術に圧倒されました。他の展示も圧巻で、出版年代順に天井まで並ぶ漫画だけの本棚や過去の漫画雑誌、付録などを読むことができ、記憶が蘇り懐かしい気持ちになりました。後者では特別展「室町幕府滅亡後 450 年足利将軍、戦国を駆ける！」を見学しました。将軍たちが直臣団や大名らと交わした古文書が展示され、織田信長の花押のある古文書など、貴重な資料がありました。ほかに国宝の東寺百合文書や重文の教王護国寺文書がありました。几帳面に並ぶ文字や筆跡から活字では伝わらない個性も感じられ、興味を掻き立てられました。(1回生・青谷尚菜子；下中来夏)



歴たび班：湖南三山



私達は2023年11月26日に滋賀の湖南三山を巡った。最初に訪れた常楽寺では、紅葉の中に佇む檜皮葺の本堂と三重塔に幻想的な美しさや迫力を感じた。次に訪れた長寿寺では、三重塔跡や石造多宝塔など、時代の跡を感じられるものに触れることができた。最後に訪れた善水寺には、長寿寺では堂々とした佇まいの本堂と仏像を拝観した。周りの池や庭園と相まって侘びを感じる景色が広がっていた。今回訪れた三寺は、本堂が全て檜皮葺であったことが強く印象に残った。檜皮葺の屋根には瓦屋根のような角張った力強さとはまた違う、歴史の重みを感じさせるような迫力があると思う。(1回生・脇坂柊吾)

歴かふえ 16・今松泰先生

2023年12月5日、第16回歴かふえでは、「歴史と思想」の授業を担当される今松泰先生より、スーフイズムや聖者信仰についての簡単な説明から、バルカン調査旅行のお話を、聖者信仰の対象となった墓廟などの写真を交えつつお話し頂きました。イスラームは絶対的な一神教で硬いイメージが持たれることの多い印象でしたが、今回はそんなイメージを覆すようなお話が多く、むしろ私たち日本人の信仰に似たものがたくさん出てきました。イスラームを象徴する文化とも言えるこの信仰に興味を持って、生徒からたくさん質問が投げかけられたのが印象的でした。(2回生・高尾小雪)



編集後記

歴らぼ通信も今回で22号目を迎えました。歴史文化学科では上回生を中心に様々な活動を行っています。現在中心となっているメンバーが卒業しても、歴らぼの活動は続いて欲しいですね。(高岸) / もうすぐ新年度。(鳴海)

編集：佐藤葵生(3回生)・高岸敬太(同)・網干理子(2回生)・高尾小雪(同)・脇坂柊吾(1回生)・藤本茉由(同)・鳴海邦匡(教員)

発行：甲南大学文学部歴史文化学科 発行日：2024年3月1日